

同 志 社 大 学

2009 年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2010 年 3 月 16 日提出

所 属	職 名	氏 名
文学部英文学科	助教	大沼由布
研 究 題 目	中世英文学における古典の受容	
研 究 成 果 の 概 要	<p>12 世紀の知識人、ティルベリのゲルヴァシウスの著作『皇帝の閑暇』を分析し、中世における「驚異」の概念について考察した。「驚異」は、中世英文学における古典の受容の一例であり、当時の文学で重要な地位を占めるものでもあった。ゲルヴァシウスによる「驚異」の定義を詳細に分析し、他の中世の作品や、中世作品に影響を与えたギリシア・ローマの作品などにも目を通し、その研究成果を、以下の論文にまとめた。</p> <p>'Gervase of Tilbury and Medieval Marvels', <i>Doshisha Literature</i>, 52-53 (2010 年 3 月刊行予定)</p> <p>次年度は、中世と古代の驚異の概念の差異に注目し、それについて研究していく予定であり、7 月にはイギリスで行われる国際学会で発表をする事が決定している。</p>	